

「台湾有事」と日本の安全保障

前統合幕僚長 河野 克俊

1 中国にとっての台湾

- (1) 経済発展に伴い海洋進出する中国にとって台湾と尖閣諸島の重要性は増大
- (2) 前インド太平洋軍司令官デビットソン海軍大將は、「今後6年以内に台湾への脅威が明確化するであろう」と議会証言（2021年3月）
 - 習近平の共産党総書記3期目へ
 - 西太平洋地域における米中軍事バランスの変化
 - 1996年の台湾海峡危機との差
 - 中距離ミサイルギャップ
 - PDI（太平洋抑止構想）

2 台湾有事と日本

- (1) 日米首脳会談（2021年4月）
 - 「台湾海峡の平和と安定の重要性」明記
- (2) 冷戦時代は、世界の安全保障の最前線は西ドイツ
- (3) 日本は好むと好まざるとに関わらず世界の安全保障の最前線に「立っちゃった」
- (4) 台湾有事は日本有事
 - 尖閣は、台湾省の一部（中国の主張）
 - 「重要影響事態」「存立危機事態」「武力攻撃事態」
- (5) 「一つの中国」と「日本の安全保障」

3 日本の対応

- (1) 中国にとって、台湾併合を「やらない」という選択肢はない。
- (2) しかし、「やれない」ということはある。そのための抑止力を日米で構築することが必要